

平成 30 年度 事業報告書

社会福祉法人杉の子会

1 施設整備事業

- 太陽の子保育園の調理室の改修工事
- けま太陽の子の内部改修工事の契約をしました。

【けま太陽の子保育園内部改修工事】

11/19「福祉環境設計舎ゆーず」と設計監理の契約を取り交わしました。

3/5 現場説明。

下記の通り入札を行いました。

入札日時 : 平成 31 年 3 月 20 日 午前 10 時～

場 所 : けま太陽の子保育園

入札業者 : リフォーム堀口、登工務店、三和建设

リフォーム堀口（落札価格：18,300,000 円）に決定し、契約を交わしました。

5/30 引き渡し。

2 寄附金

杉の子友の会より	1,000,000 円
太陽の子友の会より	1,000,000 円
けま友の会より	1,000,000 円
さんぽ友の会より	500,000 円

3 会議

理事会	4 回
評議員会	2 回（内、決議の省略 1 回）
監事会	1 回

4 その他

機関誌「ふたば」を 6 月、12 月 年 2 回発行しました。

2018年度 杉の子保育園事業報告

園児在籍数

年齢/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0才児	5	5	5	5	5	6	6	7	8	10	10	10
1才児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
2才児	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
3才児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
4才児	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13
5才児	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16
合計	79	78	78	78	78	78	78	79	80	82	82	82

1. 職員体制

【正規職員】 施設長1名 主任1名 副主任2名

保育士 10名 育休1名
 栄養士 1名(1月より産休 調理師1名)

【準正規】 保育士 2名

【パート】 保育士/ 7h: 1名(内1名休日担当) 5. 5h:1名 4h:1名 4. 5h:1名 3h:1名(延長のみ)
 調理補助/ 3. 5h:1名 用務/3h:2名(朝、夕) 延長補助/4h:2名 事務/6h:1名
 派遣保育士/ 週1日3h:1名 週4日5h:1名 週4日7h:1名 週5日7h:1名
 派遣保育補助/ 週4日7h:1名 休日保育補助:2名(隔週)

2. 開園時間

午前 7:00～午後19:30 (保育標準時間:7:00～18:00 保育短時間:8:30～16:30)
 土曜日 7:00～午後18:00
 休日保育:午前8:30～17:30

3. 事業計画重要課題

☆ 杉の子会創立50周年にむけて

杉の子会が創立して50年の節目の年、各事業所の職員が歴史を学び、気持ちをひとつにして
 これまで大切にしていきたい事を確認しながらさらに未来へ繋がっていく事を軸に様々な取り組みをおこなってきました。

50周年記念DVDの作成、記念グッズの作成、記念誌の作成 50周年記念行事の取り組み

歴史を紐解くことで願いや想いに触れ、今の世代に照らし合わせて変わらないこと、変えてはいけないこと、
 などを職員で話し合う機会を多く持ちました。悩みながらも葛藤しながらも同じ方向に向かっていく
 そんな時間を共有できた事はとても有意義であったと感じます。

☆ 「危機管理意識と災害」

6月の高槻市を震源地とする大阪地震、7月の度重なる豪雨と台風被害 連続して災害に見舞われました。
 JR線が動かない、また大阪方面の交通が寸断されることで職員の確保ができなかったり、保護者がお迎えに来れない
 さらに停電などで開園することが困難な状況でもありましたが、保育を必要としているご家庭がある中
 幸い、水は生きていたので休園をせず保育を続行しました。
 杉の子周辺では断水され困っているところが多数あったので、
 分園を解放して地域の人が水やトイレをいつでも使えるようにしました。
 この経験から地域の中に保育園がある事の大切さを実感し、
 また保護者と共に危機意識も高まり連絡体制のあり方なども考えさせられる機会となりました。

【保育実践】

☆ 年長交流 幼保小連携

公立・私立を飛び越えて交流を深めています。たくさんの園が参加する規模の大きい物から杭瀬保育所と合同でけん玉交流や3. 11の避難訓練をおこなったりと普段の保育での交流を小学校を交えながら行う事ができました。

☆ あたりまえを見直しての保育

年度途中より派遣保育士を交えての保育を行ってきました。細切れの保育体制となりこれまでの保育の流れをひとつひとつ確認して伝えもって行ってきましたが、進めていくうちに「これって本当にいいの？」と考える機会となり職員会議やクラス会などで繰り返し話し合いを持ち丁寧に保育を行っていくきっかけとなっていました。大人のペースで保育を回していることに気付き、子どもから広がる保育の見直しを行う事ができました。

【親支援・子育て支援】

☆ 地域の開放日の時間を12時まで延長しゆっくり過ごす時間を設けてきました。

前日プール解放をしました。どろんこあそびよりも水あそびが好評で人数は少ないですが後半期は参加される家庭が定着しました。

☆ 年長クラスは個人懇談を例年に続き行いました。就学に向けて言葉や文字への興味、集団への姿勢など保護者との共通認識を一致させていきました。

☆ 様々な家族の形が増え、同時に支援が必要な家庭も増えました。

家族の増減に対して地域の保健師、児童相談員と連携しながら見守り、保育園での変化を報告し大きな事案に発展しないように努めてきました。

4. 健康 保健

毎月	身体測定
5月	とびひ
6月	眼科検診 耳鼻科検診 歯科検診 歯科指導
7月	小児科検診 打撲受診
8月	流行性結膜炎
9月	亜脱臼受診
10月	水ぼうそう
11月	小児科検診 水ぼうそう 捻挫受診 脱臼受診
12月	インフルエンザ 発達相談
1月	ロタウイルス
2月	インフルエンザ 発達相談
3月	亜脱臼受診 てんかん発作

☆ 3月に年長クラスの男児がてんかん発作を発症、緊急搬送する

☆ 水ぼうそうが6年ぶりの流行しました。予防接種の普及から近年は感染拡大はなかったのですが、今回の感染力はつよく特に予防接種に受けている子の発症ケースは発疹の見分けがつきにくくそのため拡大が広がったと思われます。

☆ インフルエンザは保護者の発症ケースが多い年でした。

5. 衛生・管理

7月 ゴキブリ駆除(本園、分園、分室)

6. 特別保育事業

一時保育延べ人数(休日保育を含む)

年令	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0					1			2	1	15	15	20	51
1, 2	12	19	8	13	9	18	5	9	12	12	9	15	141
3, 4, 5	6	21	5	8	9	11	9	12	9	8	9	6	113
合計	18	40	13	21	19	29	14	33	22	35	33	41	305

平日の一時保育の要求が減少する一方で休日保育は平均して5～6名の利用がありました。
職員の確保が難しく 申し出ががあつたとしても全員の受入れができない日もありました。

延長保育延べ人数

年令	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	10	21	17	20	20	17	26	26	25	20	28	30	260
1, 2	68	80	78	58	59	45	74	79	63	67	62	67	800
3, 4, 5	172	200	168	171	135	118	156	156	147	128	161	166	1,878
合計	250	301	263	249	214	180	256	261	235	215	251	263	2,938

勤務先が遠方の方が増え お迎え時間が電車の遅延具合で左右されることが多々ありました。
保育補助の職員と保育士とのバランスをもちながらのシフト作りには苦労しました。

7. 障害児保育

発達や子育てに不安を抱えている保護者の声を吸い上げて、必要であれば個人懇談をへて困り感を聞き取り
発達相談へとつなげてきました。

また、1才半検診、3才児検診で地域保健と連携し、情報の共有を行ってきました。

就学前では小学校と連携し、保護者の対応から子どもの受け止め方の共有もはかってきました。

8. 地域の子育て支援事業

あそぼう会

毎週月曜日10:00～12:00までの開催にし、夏は毎日プール解放を行ってきました。

人形劇、カブラのワークショップ、移動動物園などたくさんのイベントも開催し、より多くの子ども達が参加しやすい
内容にも取り組んできました。

9. 実習生 ボランティアの受入れ

- 5月ー 頌栄短期大学 2年生(1名)
- 7月ー 関西国際大学 1年生(1名)
- 8月ー 関西保育専門学校 2年生(1名)
- 9月ー トライやる 小田中 2年生(2名) 成良中2年生(2名)
- 1月ー 頌栄短期大学 2年生(2名)

10. 避難訓練 健康教育 食育

- 避難訓練 ① 南海トラフ地震を見通しての地域の避難訓練に参加。津波での避難場所になっている大阪富士工業へ年長児を中心として、尼崎たんぼぼ保育園 常光寺幼稚園とともに訓練を行う予定でしたが今回は雨に見舞われ行う事ができず、見学だけとなってしまいました。
- ② 消防署立ち合い訓練では、避難、消火活動、啓蒙学習と総合訓練を行い、消火器の使い方など学びました。
- ③ 不審者対応では予告なく行い職員の対応を話し合いました。普段の保育でも「これってどうなんだろう?」と感じたことを出し合い 課題を見つけて対応を改善してきました。

- 健康教育 ① 歯科検診の際に歯科指導をいれて歯磨きに仕方など学ぶ機会を設けてきました。
- ② 手洗いうがいで風邪予防やくしゃみや咳のときは口を手で抑えるのではなく袖を口元にもっていき抑えることなど研修に参加した職員から子どもたちにわかりやすく紙芝居で教えていき実践してきました。

- 食育 ① 毎月、すべてのクラスでクッキングや日々の給食食材にふれる取り組みをしてきました。
- スナップエンドウの筋とり、玉ねぎの皮むき、トウモロコシ、たけのこの皮むき、しめじ、エノキを手でさく
そらまめのかわむき 園庭の栽培野菜の収穫 梅みそ、梅ジュースづくり...
- 梅みそづくりは保護者とのワークショップでも取り組み時間をかけて食べることへの関心を高めていきました。

11. 会議

各会議の運営責任者をはっきりとさせ 定例化し会議の中で意見交換を活発におこなえるようにしてきました。

- リーダー会...各クラスリーダー出席 主に月案・週案討議/運営責任者(主任)
- クラス会...クラス担当職員出席、子どもの見方 保育内容検討 / 運営責任者(クラスリーダー)
- フロアー会議...連携動きの確認 / 運営責任者(副主任)
- 職員会議...全職員出席 保育方針等の討議/運営責任者(園長)

12. 研修

5園園内研修

わらべうた	10名
情勢学習	12名
創作活動	12名
人権学習	12名

外部研修

保問研	6名
合研	18名
法人保育園会研修	5名
全国経営懇話会	2名
考える集会	4名

キャリアアップ研修

マネージメント	1名
乳児実践	1名
幼児実践	1名
食育	1名
防災	1名
障害児保育	1名

2018 (H30) 年度太陽の子保育園事業報告

園児在籍数

年齢月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児	6	6	7	7	7	7	7	8	8	9	9	9
1歳児	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
2歳児	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13
3歳児	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
4歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
5歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
合計	69	69	72	73	73	73	73	74	74	75	75	75

1、職員体制

[正規職員] 施設長1名。主任1名。栄養士 2名。保育士・常勤8名 ・[常勤的非常勤]2名。

[パート] 7H.1名。・4, 5H.4名 (午前4名内1名は月・木のみ。午後1名一延長保育対応12月まで)

1月以降の延長は、3人の方で(1・5～2・0h)月～金対応。)

補助7H2名。 4、5H1名。 朝3H1名。 調理補助4H1名

(産産休。岡田～休職後3月退職。福田3月退職)

2、開園時間

午前7時～午後19時 延長保育18時～19時

保育標準時間7時～午後18時。短時間8:30～16:30

今年度より閉園時間を19時30分から19時に変更。

3、事業計画重要課題

1、 法人50周年記念の取り組みをしました。

・6月8日は、子どもたちにはクッキーのプレゼントをし夜は、親子参加でお誕生会を企画。保育士と保護者で、楽器演奏を披露。子どもにもわかるように歴史を紙芝居にして上演。参加者にはメッセージを書いてもらいバースディケーキに仕上げました。

・職員では、福元理事長に障害児保育についてお話しをしていただき、保育の基本。子どもの見方を学びました。

また、延長保育・アレルギー食を始めたきっかけになった保護者(金谷さん・上月さん)を迎え 当時の思いなどお話しをしていただきました。

・12月8日の、「杉の子会50周年記念のつどい」に向けて、DVD製作。当日の企画。記念冊子作成に若い職員が中心となり取り組みを進めていきました。在園児・卒園児保護者へのお誘いも手分けして声を掛けみんなで祝い会を成功させるため知恵と力を出し合いました。

2、 改修工事は、給食室の水回り、換気扇等改装が済みました。

3、 食育の充実では、職員で「食について」年代別グループで、語り合い食育計画に反映させました。

また、給食室から積極的に、見守りや目前的和え物。クッキングのアドバイスだけでなく、子どもたちに

「飲み物の中の砂糖」「身体を強くするための食べ物」「風邪予防」「七草がゆ」「大豆」のお話しをする機会を設けました。子どもたちも真剣に聞き入り、給食室の先生たちがとても身近になりました。

年長児は、米とぎ当番で調理室の先生に見守ってもらうことができています。保護者に対しては、絵で見られる献立表も作成してもらえているので子ども達も「今日は〇〇」と楽しみに見えています。延長保育児に対して展示食は、ぎりぎりまで提示し、写真でも実施しています。1年間撮りためた写真は保育園見学者に回覧し内容を見てもらう事が出来ました。アレルギー対応についても丁寧に実施されています。

- 4、子どもたちの最善の利益保障のための取り組みとしては、保育内容改善の署名だけでなく、国に対して、保育士の処遇改善を求める内容で反応も良く取り組みました。

4、保育実践

- ・各クラスで年カ리를立てそれに基づいて月案・週案を立てています。
クラス会議を定期的に開催し計画、実践しています。
- ・幼児クラスでは、3クラスを3グループにしての縦割り保育を実施してきました。リズムあそび時もグループごとに座るなど日常的なグループ活動の取り組みをしてきました。
- ・3園で年齢別の夕方の保育の見学をし合い保育内容交流ができ、同じ年齢の保育士で悩み交流を通じ保育の充実がされてきました。
- ・年長は海合宿で杉の子・食満と交流。後半期も交流でき、保育士が太鼓を練習し披露する機会も設けました。オールあまっこの取り組みは、丸橋公園でのうんどうかいを開催し公立保育所（園田）と園田地区の園和北・レオ・田能っ子・ポップ・南清水・園和・けま太陽の子・愛児園・上坂部・猪名の森・夢の園との交流ができました。また、愛児園さんからのお誘いの移動動物園に5月と10月訪問させてもらっています。
- ・小学校とは、園田南小に1、17の取り組みに参加させてもらったり、園田小学校の作品展の見学に行きました。また、小学校の支援級の先生との交流会に参加し次年度の子どもの様子について申し送りを実施しています。
- ・わらべ歌は、職員研修で稲上先生に指導いただき新しい遊びも取り入れていきました。
- ・運動遊びについては、福岡先生に、指導してもらうことで、子どもたちのやる気度UPにつながるるとともに、縄跳びの取り入れ方の学習ができました。
- ・ワークショップの取り組みは、5歳児4回・4歳児3回そして3歳児が1回取り組みました。3歳児は、3月の時期で期待も持てました。5歳児は、4回の内1回は保護者参加で、親子がそれぞれの作品を作りました。普段できない経験で保護者も、楽しめたようです。ワークショップでのナビゲーターの声かけから、子どもの表現した作品へのアドバイスの仕方を学ぶことができました。

5、子育て支援

- ・新入園児については、0・1歳児クラスで家庭訪問を実施することで、子どもの家庭環境の理解が深められたことと保護者とゆっくり話ができ信頼感を深められたのではないかと思います。0歳児クラスは、入園後2日間は、親子で食事まで一緒にしてもらう事で保護者が、保育園での生活を少しでも知ってもらい、子どもを目の前にしながら保育士と話も出来 食事の段階も確かめ合う事が出来良かった。その後のクラス懇談会は、映像も使って日々の姿を見てもらう工夫や保育士は複数で参加して行くようにしました。

4歳児クラスは、個人懇談を実施しました。

- ・「ちいさいなかま」は、子育てふれあい部で交流会を計画し和気あいあいと交流されています。
- ・保護者会の役員会の際保育をしています。(月1回6:15~7:30)また、父母の会・保育園・太陽の子会の責任者が集まり3者協議会を毎月1回実施し交流してきました。
- ・バザーは、年2回~1回へ・太陽の子まつりの実行委員会を職員と保護者で実施。

6、健康・保健

毎月：身体測定。

健診など		発症した感染症
4月		
5月		嘔吐。胃腸炎。結膜炎2名
6	小児科健診(1名異常)眼科健診。耳鼻科健診(5名異常)。歯科健診(15名虫歯)。発達巡回相談	結膜炎3名。アデノウイルス。嘔吐。突発診
7		ヘルパンギーナ。嘔吐
8		結膜炎下痢、
9		嘔吐
10	発達巡回相談	嘔吐、RS、手足口病、
11	小児科健診	
12		
1		RS,インフルA,嘔吐、胃腸炎
2	発達巡回相談	溶連菌・インフル、嘔吐、ヒトメタニューモ
3		溶連菌・ロタ、頭ジラミ

7、衛生・管理

園庭周辺一ぐるっぺ(週2回)6月：ムカデ駆除。屋上と周辺腐葉処理。8月：ゴキブリ駆除

8、特別保育事業

- ・一時預かりはのべ16名

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児											1	1
1・2歳児		2			10		1					
3歳以上						1						
合計	0	2	0	0	10	1	1	0	0	0	1	1

- ・延長保育

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実利用者数	19	21	19	18	20	28	20	26	23	19	25	21
延べ利用者数	124	121	112	116	96	97	112	140	127	91	138	154
延長保育対応保育士の12月末で田中が出産の為退職。1月からは3名の方で対応。												

・障害児保育

- ・古川先生の発達巡回相談を年3回実施してもらい診断を受け対応の仕方を指導いただいています。
- ・子どものケース会議を実施。共通認識を持ちました。

・グラントパパママ

年間の日程を4月にお知らせしたので、予定が立てやすくなったことで、たくさん参加していただいています。6月にわらべうた遊びで交流しました(27名)。12月クラスの出し物と幼児はわらべうたなどで一緒にあそびました。クッキーのお土産は、年長が作ってくれました(36名)。餅つきは、年間予定なしで1月に実施しましたがたくさん参加していただきました(19名)。

3月の大きくなったねの会では、祝う会で披露した子どもたちの姿を観ていただきました(42名)。

9、地域子ども・子育て支援事業

・お出かけあそぼう会

夕方・丸橋公園に出かけて小学生。幼児と遊ぶ機会をもってきました。今年度は、2回実施。

掲示版やブログでお知らせしていますが、そこに来ている子どもたちと遊ぶようになっています。

・あそぼう会

あそぼう会は、多目的ホールで実施するようになり、口コミで参加者が増えています。会場が広く活動範囲が広いためハイハイ時期の子ども達は、木曜日で、動き回る子ども達は月曜日とわけて参加してもらっています。

食べ事も人気で、お母さんたちも良くお手伝いをしてくださいます。餅つきが人気だったので次年度は、あそぼう会単独での実施もして行きます。

保育園見学者も多く、できるだけあそぼう会開催の日に見学日を重ね あそぼう会への参加も呼び掛けています。その日から参加される方もおられました。

10、実習生・ボランティアの受け入れ

- ・実習は、5月一頌栄1名。9月一園田学園1名。10月一大阪こども専門学校1名。11月一園田学園1名。1月一頌栄1名。

- ・トライやるは、11月一園田中学。小園中学。の受け入れをしました。

- ・有償ボランティアは、あそぼう会木曜日に元公立保育園の先生が来てくださっています。

11、避難訓練・健康教育

防災・安全・健康委員会が計画的に年間計画に沿って実施しています。普通救命講習の技能の維持のため2年から3年間隔で講習を受けることになっており、計画的に講習参加や集団での受講会を実行してきました。今年度はポップ保育園の看護師さんに依頼し、たくさんの職員が受講できました。6月の歯科健診時に衛生士さんに歯を大事にすること。歯磨きの大事さなど子どもたちに話をしていただきました。

12、会議

職員会議は、全員出勤の土曜日は、土曜日実施。それ以外の月は、平日の13時30分～3時すぎまでで実施。会議資料は、前日提出がほぼ実施されるようになり、事前に資料を読んで会議参加することで、クラスの様子は、認知されやすくなってきています。非常勤職員が保育に回ることが多いので共通の場で意志統一できないので常勤職員が伝えるようにしてきました。リーダー会議は、職員会議では、論議できなかった内容や緊急の意思統一の際実施しました。クラス会議は、定例され進められてきています。午前勤務の職員との打ち合わせも大事にし12時から開催しています。

13、研修

5園研修

月	日		内容	参加者
5	22	火	わらべうた	加山・福田・安藤・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部・茅野・金淵
6	25	月	民主主義とは	加山・福田・安藤・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部・茅野・浦
7	31	火	ワークショップ	加山・古本・上杉・小阪・下野・伊藤・阿部・浦
8	30	木	ワークショップ	福田・安藤・砂川・阿部み・茅野
11	7	水	みんなちがってみんないい	加山・福田・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部・茅野・阿部実樹・広瀬

・法人園会研修（一部キャリアアップとして対応されています。小阪は、研修委員として参加）

月	日		内容	参加者
5	30	水	生活技術の習得	加山・砂川・小阪
7	4	水	アレルギーについて	安藤・浦・小阪
7	13	金	第3の目あなたがいて私がいる	加山・上杉・古本・阿部・福田・小阪
7	23	月	発達期における身体づくりに理論と実践	加山・福田・小阪
7	27	金	子育て支援の拠点になるための人的資源	広瀬・下野

- ・キャリアアップ研修—尼崎市が実施した研修の内3項目を加山・安藤・古本が受講時間保障しました。
- ・保育セミナー（4～5月）
（加山・福田・安藤・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部・茅野・浦・阿部実樹・高林）
- ・全国保問研（6月1～3日）兵庫県で開催の為、実行委員として運営を支えつつ分科会でも学びました。
（加山・福田・安藤・古本・砂川・小阪・伊藤・阿部・阿部実樹）
- ・兵庫の保育を考える集会（7月8日）
（加山・福田・安藤・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部・浦・阿部実樹）
- ・全国合研（8月4～6日）大阪府で開催。50周年記念と隣県開催の為多数参加し学びました。
（広瀬・加山・福田・安藤・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部・茅野・浦・阿部実樹・高林・福山・入江・国生）

（ 文責 小阪美恵子 ）

2018 年度 けま太陽の子保育園事業報告

園児在籍数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	園児合計	一時保育
4月	3	10	12	14	13	12	64	0
5月	3	10	11	14	13	12	63	0
6月	3	10	11	14	13	12	63	0
7月	3	10	11	14	13	12	63	0
8月	3	10	11	14	13	12	63	0
9月	3	10	11	14	13	12	63	0
10月	3	10	11	14	12	12	62	0
11月	4	11	11	14	12	12	64	0
12月	5	12	11	14	12	12	66	1
1月	6	11	11	14	12	12	66	8
2月	6	11	12	14	12	12	67	2
3月	6	11	12	14	12	12	67	2
合計	48	126	135	168	150	144	771	13

【職員体制】

(正規職員) 施設長 1名、 主任 1名
 保育士 6名 (1名、2月～産休)
 栄養士 2名

(常勤的非常勤職員) 保育士 3名

(パート) 保育士 7h 1名、 3.5h 1名 5.5h 1名 (10月～)
 4h 2名 (内1人2月～) 延長保育 3h 1名
 保育補助 早朝5h 1名 3h 1名 7h 1名 (12月退職)
 7h 1名 (週2回)
 調理補助 4h 1名

【開園時間】

午前7～午後7時 (午後6時～7時 延長保育)

【保育実践】

- ・3園で保育内容の交流と見学をし、具体的に疑問や悩みを出し合えた。年長クラスは海合宿後も子どもの交流ができた。今後も続けていきたい。しかし、通年続けることができなかった。
- ・4月から産休に入った職員1名、翌年2月から産休に入った職員1名がいる。パート職員も含めて子育て中の職員が多い。パート職員は短時間勤務がほとんどで扶養の範囲での勤務になる。

午後の会議に出席できないので会議時間をずらす等工夫をして保育観の一致を図った。

・キャリアアップ研修が本格的に始まり、勉強になる内容もあり、クラスやグループで報告して学習の機会をもった。また、テーマと報告者を決めてミニ学習を取り組んだ。

「乳幼児突然死症候群について」 「事故予防」 「性教育について」

・1歳児クラスの中に少し発達がゆっくりで月齢も遅い子どもがいるので、0歳児クラスと連携をとって月齢が近い集団を作りグループ保育を行った。要求の近い子どもたちの中で自分を出して生活することの保障ができた。名称も「クラス」でなく0歳児はピヨピヨグループ、1歳児はコッコグループと1年を通して「グループ」とし、お母さんが生活年齢のクラスにこだわらないよう、気を付けた。

・栄養士2人が配属になり、今まであまり積極的にできていなかった食育に取り組めるようになった。給食室がリードをとり、保育士と話し合い具体化していくことで、より連携が取れるようになった。

【子育て支援】

・対人関係等で精神的に不安定な保護者に向けてのフォローを、保育士間で情報交換しながら注意して行った。

・年長クラスは個人懇談を実施してきたが、その他のクラスでも希望があれば応じるようにしている。「私の話を聞いてほしい」というお母さんたちの気持ちが年々伝わってくる。それは子どもたちの姿とも重なってくる。

・地域保育は毎週火曜日実施。前半、コンスタントに参加があったが、後半になり近隣の幼稚園が、週3日、2歳児をと定期的に預かるようになってぐっと減ってしまった。また、ゆっくりと自分たちだけですごせるスペースを求める傾向にある様子。とはいえ、これからの課題として知らせ方、内容など考えていく。

【特別保育事業】

*一時預かり保育 のべ 13名の利用

今年度は前半、保育体制の影響と問合せが減ったのもあり、受け入れ人数が減少した。

*延長保育

利用人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児	0	17	19	15	13	12	15	17	10	13	18	13
1・2歳児	7	6	8	9	7	7	8	10	11	5	11	15
3歳児以上	79	100	106	91	83	83	95	99	81	86	100	96
合計	86	123	133	115	103	102	118	126	102	104	129	124

【障害児保育】

・発達がゆっくりだったり、しんどさを抱える子どもについてのケース会議を必要に応じて開き、集団でお母さんと子どもを援助していくよう心掛けた。

・年 3 回あおぞら生協クリニックより古川先生の巡回発達相談で気になる子を見て頂き、毎回貴重なアドバイスを頂き保育に活かしている。そこから保護者と一緒に受診する発達相談に繋げて家庭とも連携して援助できるような体制づくりにすすめている。

【職員研修】

* 合同研修はひまわり、杉の子、太陽の子と実施し様々な分野から講師に来て頂いている。毎回、非常勤職員も含めて参加している。

研修内容	5 / 2 2 わらべうたあそび	6 / 2 5 日本の民主主義と政治	7 / 3 1 ワークショップ	8 / 3 0	1 1 / 7 命について考える
参加人数	1 0	1 3	1 3		9

兵保連保育セミナー のべ 2 1 人参加

兵庫の保育を考える集会 1 0 人参加

全国保育団体合同研究集会 9 人参加

全国保門研 6 人

法人園会研修

研修の内容は、報告書の閲覧と、その時々に応じて職員会議で報告し、共有している。

【会議】

* 職員会議

毎月の職員会議は平日の 1 3 : 4 5 ~ 1 5 : 0 0 過ぎの時間に行っている。事前に主任に月案を提出する流れは定着してきた。園長、主任で会議内容や問題の分析・提起の仕方を、検討できるようになってきた。

しかし、報告が子どもの姿を伝えることが中心になりがちなので、テーマをしぼったり、振り返りをしっかり行うことに重点を置くよう提起している。これから身に付けていかなければならないと思う。

【実習生受け入れ】

9 月 3 日 ~ 2 週間 園田学園女子大学より 1 名受け入れ

11 月 5 日 ~ 2 週間 園田学園女子大学より 2 名受け入れ

【トライやる受け入れ】

11 月 26 日 ~ 30 日 園田中学より 4 名

【避難訓練】

月	内容	月	内容
4	火災・給食室より出火	10	火災・裏のマンションより出火
5	火災・避難 通報訓練	11	地震・津波 防災頭巾を着用
6	洪水・園田小学校へ避難	12	火災
7	不審者対応	1	地震・津波 園小での防災訓練に参加 消防署より来てもらってお話とDVD
8	地震	2	火災 給食室より出火
9	台風避難	3	地震・津波 園小へ避難

防災委員が中心となつての訓練が定着し、他園と情報交換し積極的な提案をするようになった。

【歴史をつなぐ活動】

・杉の子会 50 周年の 1 年間、記念 DVD、集い、冊子と若い職員も参加して作ってきた。手探りの状態から始まったが、一人ひとりが、保育園での仕事、運動で造ること、杉の子会の理念の持つ意味など振り返り次に続いていく機会となった。

・けまの中では、杉の子創立時に頑張ってこられた方が在園時の祖父母だったので、6 月 8 日のお祝い会に来てお話をして頂きました。また、12 月 8 日の 50 周年のつどいには、20 家庭の保護者の参加も得ることができ職員も励まされた。

2018年度 さんぽ支援センター 事業報告

2018年度は各事業が安定的に発展し、支援体制の充実とともに、事業発展の方向性が明らかになり。他事業所や行政との連携も広がった一年でした。

1 実施事業について

***移動支援は** 利用者が 27 名となり 昨年から新規で2名ふえ解除1名で差し引き1名の増でしたが、契約時間を増やした利用者が数名おり、契約時間は(400時間)と大幅に増え、実績も目標の300時間を到達することができました。

利用していた事業所から、支援を確保できずに断られ、さんぽ支援センターとの契約時間を増やすというケースがほとんどです。移動支援の単価切り下げの影響で支援の縮小があることやヘルパー不足の厳しい現実がうかがえます。

***居宅支援は** 15時間から50時間を超えました。 6名の利用です。

身体介護や家事援助・通院介助ですが、どれもその人の生活を維持するうえで重要な役割を果たしています。通院介助は 通院の往復だけの報酬しか支給されないという矛盾点があります。しかし、健康管理からは、大切な支援で、突発的な依頼もありますが、こたえたいと思います。

***日中一時支援は** 日数8-9日でした。

作業所の帰宅途中にトラブルを起こしがちな Y さんに対して作業所との協議も踏まえて日中一時を毎日利用する支援が発生しています。家族の安心にもつながり、本人の自覚も生まれています。また、作業所からの後、体を休めるために利用するケースもあります。

3-4人が利用する日もあり、そこでは集団のかかわりがよく見えてきます。利用者の力の合わせ方や刺激しあい、譲り合うなど、いろんな気持ちの交流がみられ、有意義な時間となっています。このように日中一時支援はいろんなケースに対応できるので利用者にとっては大きな利点のある事業です。単価が低いので、取り組む事業所は少く、常駐スタッフが対応せざるを得ない事業です。今後も単価引き上げの動きを作っていきたいと思います。

***短期入所は** 2017年度は月4回 利用者11人が利用という状況でしたが、2018年度は

月12-13回の実施 利用者18人(男性13女性4)というふうに飛躍的に拡大しました。これは利用者の希望の強い土日の実施を取り組めたことと、どの曜日でも2人以上で受け入れるという方針を打ち出したことによります。何よりも、支援員の確保が大きかったと思います。水金土日対応可能な男性の支援員が確保できたことが大きいです。

尼崎市の短期入所事業のネットワークに登録されて、そこからの紹介から利用に結びついた人ができ、また、生活相談員とアセスメント作業でつながりができて、別の利用者の相談から短期入所利用などにも結び付いています。

重度障害の人も利用が増えていますが、最初は 緊張して、落ち着きがなかったり、寝られずに不

安がったり、排泄が出来なかったりと様々ですが、2度3度となるころからは、安心できる場所という慣れも見えてきて、スタッフの人格によるところも大きいですが、落ち着いて過ごせるようになっていきます。知らないところで食べたり、寝たりすることは、どんな人でもまず不安感があること、それを乗り越えようと頑張る利用者とスタッフの共同作業があつて成り立つものと確信します。

2 人材育成と研修

短期入所 移動支援 部門別のヘルパー会議を2回実施しました。

防災マニュアルの学習、利用者への働きかけの交流、虐待防止の学習、保護者支援などについて意見交換しました。現場で把握している利用者の状況をその都度反映させたり、対応が適切だったかをみんなで話しあいました。

大きな事故もありましたが、発見、対応ができたことで大事に至らずに済みました。今後の教訓にしていくための対策を実施しています。

全障研・兵庫の保育を考える集会、合研・保育園との合同研修る集会・なども派遣しましたが、すべてのヘルパーに声をかけるところまで行ってません。基本的な考え方や保育の発達の視点をより幅広く身に着けたヘルパーの育成がまだまだ不十分です。しかし、何人かノヘルパーは積極的に参加してくれて、社会的な視野が広がったという感想を寄せてくれています。なかなか土日のとりくみや夜間の取り組みなので難しいですが、今後の取り組みを強化する必要があります。

3 保護者対応

*個別支援計画にもとずいて 半年に1回の個別面談をしました。

後半の個別懇談は 新規利用の人を中心にしました。新たに信頼関係を結ぶ土台として 利用者の生い立ちから聞き、保護者の考え方の変化をできるだけ率直に話していただけるようにしました。そして、さんぽ支援センターに対しての要望を出し切れるように配慮しました。その中から申請している事業以外の利用の要望も聞けて支援につながることもありました。

*作業所とのつながりを持つ必要性もクローズアップされて、縦横に支援のつながりを網羅していくことがとても大切だと感じました。利用計画相談が尼崎でも進んでいますので、担当の方にも必要な場合は 情報提供・共有ができると、よい結果につながっていきます。

時にはケース会議で支援するすべての事業所が一堂に会して保護者も交えて話し合う場もあります。なかなか大変ですが、具体的な支援がそこで広がりさんぽ支援センターの守備範囲がはっきりしてくることもあり、とても有意義です。

4 運営の改善

さんぽ支援センター会議を職員と理事長を含めて月 2 回定例で実施してきました。運営の合理化と整理がすすみ、支援の充実を図れて、援助体制も取れていき、アドバイス指導がよかったです。基本路線として 施設の活用が少ないという指摘を受けて、主たる事業や施設の活用を検討しましたが、短期入所の実施が月の大半(15 回ぐらい)と増えたことにより、施設活用がされ始めているという認識のもと事業拡大については 当面見送ることとなりました。

今後、新たなニーズや状況が出てくるかもしれませんので、引き続き視野に入れていきます。

サービス提供責任者の交代をした中で、居宅・移動支援事業部門と短期入所・日中一時支援事業部門の区分けをしていき、支援料の増大に対応できました。

居宅・移動支援サービス提供責任者に情報が集中していけるように担当を明確化し、保護者にも徹底しました。

しかし、急な変更やキャンセルの時の対応が、事務所が開いていない土日など、個人の携帯で処理をする場合があります、今後は 管理者が事業所携帯を持つべく進めています。

短期入所は 固定を基本にルールを作り、移動支援のコーディネートの絡みもありますのでより早く集約できるようにしました。コーディネートが決まってからの変更対応もたくさんあり、まだまだ改善が必要です。重大なミスはなくなりましたが、スタッフの意見の聞き取りなど、絶えず連携がいきます。書式化して対応する事が課題です。

5 他事業所とのかかわり・運動のかかわり

*利用者はいろんな事業所にかかわっています。利用計画相談(ケアマネージャーのような存在)の協議であるモニタリングが定期的にまたは必要性があるときに開催され、全事業所の聞き取りをします。電話での聞き取りもありますが、会議形式で出し合うこともよくあります。会議の場では支援の顔が見え、私たちもいろんな情報や考え方が分かります。支援の隙間があって困ることなどに対して、私たちから提案することもあります。昨年度は利用者全体の 40%が何らかの形のモニタリングをしました。支援の前進のためには とても大切な作業として、未実施の利用者についても、いつでも受けられるように体制をとっていきます。

*運動とのかかわりは きょうされん・兵障協・全障研がありますが、特にきょうされんは、全国組織であらゆる障害者問題にかかわっているところです。全国署名や学習会、地域ブロック会議の参加・事業活動としての物品販売に参加しています。

各事業の利用者数・実績

移動支援		居宅		日中一時	短期入所
利用者	男性 12	家事 2	通院 2	9	17
	女性 9	身体 3	重度訪問 1		
実績時間数	260 時間	60 時間		8 日間	14 回 60 人
ヘルパー	12 人	7 人		3	8

2018年の活動

毎月	コーディネート会議 さんぼ職員会議 避難訓練 支援センターだより発行 利用者だより発行	
月	全体	利用者
4月	個別懇談 個別支援計画(後半)の説明 各種マニュアルの改正	毎月 キッチン9 ツキイチアートの利用あり
5月	個別懇談 短期入所担当支援員会議 消防署立ち入り監査 サービス提供者 金淵愛子氏に交代	
6月	虹の会学習会参加 ケース検討会議 短期入所専門スタッフ確保	
7月	ゴキブリ駆除 塚ロイオン黄色いレシートにさんぼ支援センター登録 考える集会参加	IPPO ワークショップ
8月	ヘルパー会議・研修 合研参加	そうめん流し
9月		塚ろうたう会参加
10月	さんぼフェスタ 2周年記念まつり (コープにて カフェ) 保護者・利用者も参加して開催	
11月		塚ろうたう会参加
12月	短期入所土日開始 杉の子50周年のつどい参加	クッキングとお楽しみ会
1月	きょうされん署名	新年会 お鍋の会
3月	原田先生学習会 実践報告 署名統一行動	春のクッキング いなりずし